

わが国の幼児の遊びに関する歴史的変遷（3）

—明治時代—

○峯 克政
(ひさみ幼稚園)

柴崎正行
(東京家政大学)

1. 研究目的

当研究では、古代から現代に至る幼児の遊びの実態を歴史的に振り返ることで、「幼児がどのように遊んできたのか」「現代にある幼児の遊びがいつ頃から形成されたのか」ということを明らかにしていく。そして、それを手がかりとし、「現在・未来の子どもたちに必要な遊び環境とは何か」ということを模索することを目的とする。ここでは、古代・中世、近世に引き続き、明治時代の子どもの遊びに着目して、資料に基づいて考察する。

2. 研究方法

子どもの遊びの実態を知る手がかりを、絵画史料を中心に追求していく。分析対象は、生活や文化・風俗・名所などが描かれた図絵中の子どもの遊び場面とする。方法は、遊びの要素となる「遊び空間」「遊び仲間」「遊び道具」の3点に焦点を当てて分析する。

遊び場面の抽出数は、336である。尚、幼児の遊びだけでなく、子ども全体の遊びを分析対象とし、社会的階層により遊び環境が異なることを踏まえ、服装・調度品などにに基づき、上流家庭と一般家庭の子どもに分けて分析した（上流家庭143、一般家庭193）。さらに本研究では便宜上、子どもの年齢区分は、背・髪型・服装などを参考にして、赤子を「乳児」、乳児期過ぎから6歳位までを「幼児」、7歳から12歳位までを「児童」、13歳から15歳位までを「少年」として区分していく。

3. 結果と考察

I. 遊び空間 <表1参照>

①上流家庭の子どもたち

特徴は、まず戸外に比べて家の敷地内が多いことが挙げられる。家の敷地内は、60%を超える。なかでも室内で遊ぶ描写が多く（49.6%）、室内遊び的傾向が強く示された。また、戸外の遊び空間に着目すると、明治以前には見られなかった植物園や幼稚園といった意図的・教

育的空間が新たに加わっている（12.4%）。家という生活的空間やこれらの閉鎖的空間と、戸外の自然的空間とでは質が異なる。当然、場や物が整っており安全性も高い場であるが、受身的な活動が主になり、創造的な遊びは展開されにくくなる。川、海、野原、森林といった自然的空間で遊んでいる描写少なかった（7.0%）。

幼児においても、7割近くは家の敷地内であった。子ども全体と異なる点は、家の敷地内の中でも、室内がさらに増えることである（57.9%）。これは、幼児が周囲の人に手厚く保護され、安全面や衛生的なことで配慮されていたことを意味付ける。また、幼稚園や動物園などの空間の描写は、上流家庭の幼児が整備された意図的な遊び場を与えられるようになったことを示している。

②一般家庭の子どもたち

戸外遊びが83.5%と高く、上流家庭の子どもと大きな差異が見られた。具体的に見ると、「場を特定できない戸外」があるために正確な数値ではないが、1位は寺社の境内（23.6%）、2位は路上（20.4%）となり、日本古来の伝統的な場である寺社や、路上が遊び場として大きな役割を果たしていたと言える。川、野原などの自然的空間は14.8%を占め、上流家庭の子どもの2倍もあった。また植物園などの設定された空間は少なく、大人に予め遊び場を用意されてはいなかった。自分たちで遊び場を求め、そこで自発的に遊びを繰り広げていたと言える。

幼児においても、子ども全体とほぼ同じ傾向を示し、戸外が8割を占めた。分類できる範囲でみると、戸外の1位は、路上（21.4%）、2位は寺社（18.6%）となり、幼児にとっても主なる遊び場は路上や寺社だったとされる。また、自然的空間も12.9%を占めている。幼児の特徴としては、自由に遊び場を選択し、広範囲な空間を利用して遊びを楽しんでいたと言える。

II. 遊び仲間 <表は発表当日に資料として配布>

①上流家庭の子どもたち

幼児の1人遊びや幼児2～4人での遊びが比較的多く、幼児だけでも自由に遊んでいたことが窺える。このこと

は、上流家庭の幼児が安全な遊び場を確保されていたことと大いに関係すると思われる。また、集団遊びが全体で占める割合が高く、約50%に及ぶ。特に、児童2～4人での遊びが多く、全体の20%を示した。異世代の集団遊びでは、「幼児と女子の児童」が遊ぶ場面が多くみられる。子どもと大人との関わりは、全体の35.2%と、高いことが示された。特に母と一緒にいることが目立っており、「幼児と母」、「児童と母」、「幼児・児童・母」という組み合わせの割合が高くなっている。母が何らかの形で幼児の遊びに関係している様子は多く、約14%の割合を示す。これは、上流階級で日常の暮らしが富裕で安定しているため、余暇の時間も多く母親が我が子の世話をできる余裕があることが要因と考えられる。

②一般家庭の子どもたち

幼児の1人遊びや幼児同士の遊びが殆どなく、集団遊びの割合が高く、80%近くにも及ぶ。なかでも、「児童の同性・同世代集団2～4人」での遊びが多く、28.5%と高い割合を示している。異世代集団は、「幼児と児童」の組み合わせが頻出し、子守りの児童を含めて、21.2%と極めて高い比率になっている。また、子どもと大人が遊ぶ割合は13.0%と低く、母と子どもの関わりも少ないことが示された。これは、母親が労働に時間を費やさなければならなかった生活状況が考えられる。仕事の忙しさゆえに子どもとゆったりと遊ばず、代わりに、年長の児童が幼児の面倒をみるようになっていったと思われる。

Ⅲ．遊び道具 <表2 参照>

①上流家庭の子どもたち

全体の約50%を商品玩具が占めており、上流家庭に広く商品玩具が浸透していたことがわかる。前代に比べ種類も豊富になり、質もよくなり、子どもたちにとって<表1> 明治時代の子どもの遊び空間

		上流家庭 (%)		一般家庭 (%)	
		全 体	幼 児	全 体	幼 児
家	室 内	64(49.6)	33(57.9)	22(11.5)	11(15.7)
	庭	17(13.2)	6(10.5)	7(3.7)	3(4.3)
	縁 側	2(1.6)	0	1(0.5)	0
戸	野 原	4(3.1)	0	12(6.3)	3(4.3)
	川 原	2(1.6)	0	10(5.2)	5(7.1)
	路 上	6(4.7)	0	39(20.4)	15(21.4)
	寺 社	3(2.3)	2(3.5)	45(23.6)	15(21.4)
	植物園	10(7.8)	4(7.0)	2(1.0)	1(1.4)
	幼稚園	5(3.9)	5(8.8)	0	—
	店	1(0.8)	0	3(1.6)	2(2.9)
	海 辺	1(0.8)	1(1.8)	3(1.6)	1(1.4)
	空 地	0	—	2(1.0)	0
	森 林	2	0	3(1.6)	0
外	おそらく戸外	9(7.0)	5(8.8)	35(18.3)	12(17.1)
	その他	3(2.3)	1(1.8)	7(3.7)	2(2.9)
不 明		14	8	2	1

遊び玩具は、不可欠な物であったと思われる。また「子どもの遊びには玩具が必要」「放任するよりも玩具を与えて遊ばせる方がよい」という親の遊び観・養育観がより一層強くなったことも考えられる。このように専ら大人から与えられる物で遊ぶことが増える傾向にある。それと反比例して手製玩具や自然物が極めて少数になっており、手製玩具・自然物・動植物を合わせても、その割合は12.2%であった。けれども、日常生活用品を工夫して使う遊びや、道具を使わないでできる遊びもそれぞれ16.0%確認できた。

幼児においても、商品玩具が非常に多く、手製玩具や自然物が少ない傾向を示している。商品玩具の割合は60.7%となり比率がさらに高くなっている。これは、単に商品玩具の流行の他に「幼児期には特に玩具を与えることが好ましい」という親の観念が定着しつつあったことを示しているようでもある。次に多かったのが、日常生活道具と道具を使わない遊びで、それぞれ11.2%となっている。また手製玩具・自然物・動植物を合わせたものの割合は12.4%となり、自然とふれあう機会が乏しかったと言える。

②一般家庭の子どもたち

商品玩具は34.5%あるが、上流家庭の割合と比較すると低い。その分、手製の玩具・自然物・動植物を足した割合が25.6%もあり、上流家庭よりも2倍高くなっている。一般家庭では、経済的に商品玩具をたくさん買う余裕が上流家庭ほどなかったものと思われる。

幼児に限っても、子ども全体と同傾向である。道具を使わずにできる「かごめかごめ」「かくれんぼ」「鬼ごっこ」などの伝承遊びも多く、20.2%を占めている。また手製玩具・自然物・動植物を合わせた割合は18.2%である。一般家庭の幼児は、商品玩具に片寄らず、手製玩具や日常生活道具、自然物、動植物なども遊び道具とし、また身体をおもいつきり動かすことや伝承遊びを楽しみ、自発的に遊びを展開していたのである。

<表2> 明治時代の子どもの遊び道具

	上流家庭 (%)		一般家庭 (%)	
	全 体	幼 児	全 体	幼 児
既製玩具	96(51.1)	54(60.7)	101(34.5)	42(42.4)
手製玩具	4(2.1)	3(3.4)	19(6.5)	2(2.0)
自然物	2(1.1)	0	31(10.6)	6(6.1)
動植物	17(9.0)	8(9.0)	25(8.5)	10(10.1)
生活道具	30(16.0)	10(11.2)	42(14.3)	14(14.1)
児童芸術	0	—	1(0.3)	1(1.0)
祭具	7(3.7)	3(3.4)	22(7.5)	3(3.0)
食物	0	—	4(1.4)	1(1.0)
固定遊具	2(2.1)	1(1.1)	0	—
なし	30(16.0)	10(11.2)	42(14.3)	20(20.2)
不明	2	2	6	3